

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地				
大阪工業技術専門学校		昭和51年10月1日		校 長 福田益和		〒 530-0043 (住所) 大阪府大阪市北区天満1-8-24 (電話) 06-6352-0091				
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地				
学校法人福田学園		昭和40年3月31日		理事長 福田益和		〒 530-0043 (住所) 大阪府大阪市北区天満1-9-27 (電話) 06-6352-0093				
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度		高度専門士認定年度		職業実践専門課程認定年度	
工業	工業専門課程		大工技能学科		平成23(2011)年度		-		平成26(2014)年度	
学科の目的		本学科は、木造を中心とした大工技能教育、建築士資格教育、図面実技教育を教育の中心に据え、大工職に限らない新しい建築技術者像を目指した学科である。そうした事から校内の実習だけではなく、積極的に学外実習を取り入れ、公園の休憩所や山小屋などの建築の現場に赴き、社会につながる実習を行うことで、現場技術者の視点から実践力を確実に身につけることを目的としている。								
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)		建築業界で就く職種等に応じて必要となる『建築士(1級・2級)』をはじめ、『各施工管理技士(建築・電気工事・土木・管工事・造園・建設機械)』や『各技能士(建築大工・建築配管)』、また『建築積算士補』や『インテリアコーディネーター』・『福祉住環境コーディネーター』等の資格取得を目指す。								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数			講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入			1,824 単位時間	704 単位時間	0 単位時間	1,472 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
					単位	単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)		中退率			
70 人	41 人		1 人		2 %		13 %			
就職等の状況	■卒業者数(C)		20 人							
	■就職希望者数(D)		20 人							
	■就職者数(E)		20 人							
	■地元就職者数(F)		13 人							
	■就職率(E/D)		100 %							
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		65 %							
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		100 %							
	■進学者数		0 人							
	■その他									
	(令和 6 年度卒業者に関する令和 7 年 5 月 1 日時点の情報)									
■主な就職先、業界等										
(令和6年度卒業生)										
建設会社、建築設計事務所、ハウスメーカー、工務店、他										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載					無				
	評価団体:		受審年月:		評価結果を掲載したホームページURL					
当該学科のホームページURL	https://www.oct.ac.jp/course/									
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)									
	総授業時数					2,176 単位時間				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数					256 単位時間				
	うち企業等と連携した演習の授業時数					0 単位時間				
	うち必修授業時数					1,344 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数					256 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数					0 単位時間				
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)					0 単位時間				
	(B:単位数による算定)									
	総単位数					単位				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数					単位				
	うち企業等と連携した演習の単位数					単位				
	うち必修単位数					単位				
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数					単位				
	うち企業等と連携した必修の演習の単位数					単位				
	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)					単位				
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者(専修学校設置基準第41条第1項第1号)					4 人				
	② 学士の学位を有する者等(専修学校設置基準第41条第1項第2号)					0 人				
	③ 高等学校教諭等経験者(専修学校設置基準第41条第1項第3号)					0 人				
	④ 修士の学位又は専門職学位(専修学校設置基準第41条第1項第4号)					1 人				
	⑤ その他(専修学校設置基準第41条第1項第5号)					0 人				
	計					5 人				
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数					5 人				

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

各専攻分野の学生の就職先業界における人材の専門性に関する動向や国または地域の産業振興の方向性、新産業の成長に伴い、新たに必要となる実務に関する知識・技術・技能などを十分に把握、分析した上で、大阪工業技術専門学校専門課程の教育を施すにふさわしい教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む)を行い、企業等の要請等を十分に活かしつつ実践的かつ専門的な職業教育を行うことを目的とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

企業と連携して実習、又は演習等の授業を行う際の職業実践専門課程の編成にあたり、実習又は演習等の授業の実施に加え、授業内容や方法及び学生の学修成果の評価について審議する機関として大阪工業技術専門学校教育課程編成委員会を置く。教育課程編成委員会で審議された授業等(案)は、教務委員会へ附議の後、運営会議で承認を得て採用となる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年7月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
林 康裕	一般社団法人 日本建築学会 近畿支部 前支部長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	②
工藤 晃久	一般社団法人 兵庫県建築士事務所協会 阪神支部 支部長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	①
稲岡 信義	株式会社 鳥羽瀬社寺建築 代表取締役社長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	③
伊東 和幸	学校法人福田学園 大阪工業技術専門学校 副校長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	—
宗林 功	学校法人福田学園 大阪工業技術専門学校 教務課長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	—
吉田 裕彦	学校法人福田学園 大阪工業技術専門学校 企画開発局長(兼、建築設計学科長、ロボット・機械学科長)	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	—
荒井 圭一郎	学校法人福田学園 大阪工業技術専門学校 大工技能学科長(兼、I 部建築学科長)	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	—
善才 雅夫	学校法人福田学園 大阪工業技術専門学校 進路支援室長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(9月～10月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年09月13日 10:00～12:00(令和6年度)

第2回 令和6年10月11日 14:00～16:00(令和6年度)

第1回 令和7年09月05日 10:00～12:00(令和7年度)

第2回 令和7年10月03日 14:00～16:00(令和7年度)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

【令和7年度】〔課題〕木造建築の文化継承と地場産業の活性化が急務であり、職人の高齢化・後継者不足を解消する人材育成が課題である。伝統技能から設計技術、文化理解までを包括的に学ばせ、「つくる・守る・つなぐ」力を持つ実践的で地域貢献型の技術者を育成する教育体制の確立が求められている。〔意見〕伝統工法は現代では仕事の安定や価格競争がなく、必要性が十分に認められていないため、文化財としてしか存続できない可能性がある。それでも存続は難しいが、一部では高級ホテルなどで日本文化の象徴として数寄屋造りが採用される例も見られる。〔今後の対応〕木造建築の文化と技術を次世代へ継承するため、伝統技能・設計技術・文化理解を統合的に学ぶ教育体制を整備する。地域産業や観光分野と連携し、伝統工法の新たな価値創出や活用を場を拡大することで、後継者育成と地場産業の活性化を図る。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校では、専門知識や技術の習得に加えて職業実践の場で必要とされる現場での企画力、マネジメント力、コミュニケーション力、プレゼン力、営業力、会計力等の力（本校ではこれらを総称して「真の仕事力」とする）の育成を目指しています。原則、実習・演習等に於いては、積極的に企業等のプロフェッショナルの協力を得て授業内容や方法の設定、学生の学修成果の評価を行う。とりわけ、「真の仕事力」に関連する実践的かつ専門的な能力の評価については、企業等との連携によって行う。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

企業等との連携は、主として設計製図、制作実習、また設計、制作のみならずビジネス実務、マネジメント等までも含めた総合的な職業実践に関わる実習等において行う。その結果として、学修評価は各科目ごとの全授業日程終了後に、企業等から学校に対して評価表を以って成績の報告が行われ、それに基づき学校にて単位認定を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
設計製図Ⅰ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	建築設計製図の一連の流れである、問題の認識 その解決 そして伝達のための表現といった各過程を、身近な題材を元にした設計課題を通じて学ぶ。そのなかで建築業界のあらゆる職種で必要とされる、考える能力、実現する能力、伝達する能力を養成することを目的とする。と同時に作品を作っていく過程を通じて、モノづくりの魅力を体感し、社会で自己実現をなし得る主体性、積極性を育む。	NAKAHIRA ARCHITECTS、akka Ltd
設計製図Ⅱ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	1年次での設計製図Ⅰや計画系の講義、その他で学んだことをベースにし、実際に建てることのできるということを前提条件にして設計演習を行う。集合住宅、学校、図書館、博物館を課題に取り上げ、与条件の分析、全体構想、所要室の整理、モデル化、図面化を通して、各種建築の概要と一連の設計工程を理解する。	WASH建築設計室

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的にやっていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

職業実践教育にかかる実務研修規程に基づき、実務研修計画書の作成に当たっては、組織的に位置付けられたもの、且つ計画的なものとするため、教務委員会において原案を作成・審議の後、運営会議の承認を得るものとしている。その上で、専門分野の知識・技術の進歩、制度の変更、仕事に対する価値観の変化等、業界内外の動向をいち早く理解・分析し、それを教育内容や方法に反映させるための組織的な研修・研究を教員に対して行う。また同研修・研究において、授業及び生徒に対する指導力等の修得・向上を目指す。

## (2) 研修等の実績

### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	脱炭素・ウェルネス等、複雑化する課題に応える建築設備	連携企業等:	(公社)空気調和・衛生工学会
期間:	令和6年6月21日(金)	対象:	建築系学科教員
内容	海外におけるカーボンニュートラル動向、他		
研修名:	ミスト利用の課題と展望	連携企業等:	(公社)空気調和・衛生工学会
期間:	令和6年9月20日(金)	対象:	建築系学科教員
内容	ミストが創る潤いのある生活空間、他		

### ② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	令和6年度新任教員研修	連携企業等:	大阪府専修学校各種学校連合会
期間:	令和6年7月26日(金)～8月6日(火)	対象:	新専任教員
内容	教育メソッドを活用した教育実践、他		
研修名:	教育の「今」と「未来」を考える	連携企業等:	EDIX実行委員会
期間:	令和6年5月9日(木)～10日(金)	対象:	全専任教員
内容	我が国の教育の情報化の最新動向、他		
研修名:	心に病を持つ学生への対応	連携企業等:	医療法人クリニック
期間:	令和6年9月12日(木)	対象:	全専任教員
内容	青年期に発症しやすい精神疾患、他		

## (3) 研修等の計画

### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	万博会場におけるガスのカーボンニュートラル化等	連携企業等:	(公社)空気調和・衛生工学会
期間:	令和7年6月19日(木)	対象:	建築系学科教員
内容	Daigasグループの環境配慮の取組み、他		
研修名:	建築設備の最新動向	連携企業等:	(公社)空気調和・衛生工学会
期間:	令和7年7月23日(水)	対象:	建築系学科教員
内容	新庁舎の環境設備計画、他		

### ② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	AIが教育を変える！	連携企業等:	EDIX実行委員会
期間:	令和7年4月24日(木)～25日(金)	対象:	全専任教員
内容	学びの主導権は誰の手に？、他		
研修名:	職業教育マネジメントの取組事例	連携企業等:	(専)東京テクニカルカレッジ
期間:	令和7年9月11日(木)	対象:	全専任教員
内容	授業計画表(コマシラバス等)の作成、他		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

### (1) 学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、学校の教育活動、その他の学校運営の状況について、自己点検評価を行うと共に、企業等の役職員等からなる「学校関係者評価委員会」に自己点検評価の結果を評価していただく。また、その結果をホームページ等で広く社会に公表すると共に、今後の教育活動及びその他の学校運営に活かすことをその目的、方針とする。

## (2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	学校の将来構想を描き、3～5年程度先を見据えた中期的構想を抱いているか
(2)学校運営	業務効率化を図る情報システム化がなされているか（DX化）
(3)教育活動	教育活動（授業体制・カリキュラム・教授力等）の变革について
(4)学修成果	就職に関する目標/資格取得に関する目標/退学率について
(5)学生支援	学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか
(6)教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか
(7)学生の受入れ募集	学生募集活動は適正に行われているか。入試選考は適正かつ公平な基準に基づき行われているか
(8)財務	中長期的に学校の財務基盤は安定しているか
(9)法令等の遵守	法令、設置基準等の遵守と適正な運営について
(10)社会貢献・地域貢献	企業・団体、地域との連携について。学校の教育資源や施設を活用した社会貢献について
(11)国際交流	留学生の受入れ等の戦略的な国際交流について

※(10)及び(11)については任意記載。

## (3)学校関係者評価結果の活用状況

【令和7年度】木造建築の文化継承と地場産業の活性化に向け、職人の高齢化・後継者不足を解消する人材育成が必要である。また、伝統技能・設計技術・文化理解を包括的に学び、「つくる・守る・つなぐ」力を備えた地域貢献型の技術者を育成する教育体制の構築が求められるといった課題があり、委員からは、伝統工法は現代では需要や経済性が低く、文化財としての存続にとどまる可能性がある。しかし、一部では高級ホテルなどで日本文化を象徴する数寄屋造りが採用される例もあり、新たな価値として活かされる可能性も存在するといった意見があった。今後の対応としては、伝統技能・設計技術・文化理解を統合した教育体制を整備し、木造建築文化の継承を図る。また、地域産業や観光分野と連携し、伝統工法の活用機会を広げることで、新たな価値を創出し、後継者育成と地場産業の活性化を促進することを検討する。

## (4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
大橋 幸一	堺市立庭代台中学校 校長	令和7年年4月1日～令和9年3月31日(2年)	学校長
石田 智泰	栗本建設工業株式会社 常務取締役大阪本店長	令和7年年4月1日～令和9年3月31日(2年)	企業等委員
河野 正道	住友精密工業株式会社 総務人事部アシスタントマネジャー	令和7年年4月1日～令和9年3月31日(2年)	企業等委員
村野 智子	大阪工業技術専門学校（建築学科Ⅱ部卒業）OCT校友会 会長	令和7年年4月1日～令和9年3月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

## (5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: [https://www.oct.ac.jp/views/themes/OCT2025/assets/pdf/other/R7\\_Rgakkoukannkeishahyouka](https://www.oct.ac.jp/views/themes/OCT2025/assets/pdf/other/R7_Rgakkoukannkeishahyouka)

公表時期: 令和7年9月17日

## 5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

## (1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し大阪工業技術専門学校の教育活動、その他の学校運営の状況に関する情報「専門学校における情報提供等への取組みに関するガイドライン」で掲げられた項目-学校の概要、目標計画、各学科の教育、キャリア教育、学生の修学支援、教職員等」をホームページを通じて恒常的に情報提供する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の概要(沿革等)、学校の目標及び計画
(2) 各学科等の教育	学校の教育方針、各学科の教育目的・カリキュラム編成、及び学生数等
(3) 教職員	各学科の担当教員数(専任・非常勤講師)、他
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育、及び就職支援等への取組
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事への取組、及び部活動等の状況
(6) 学生の生活支援	学生支援の方針、及び取組状況
(7) 学生納付金・修学支援	各種就学支援制度 ※学生納付金等は(2-②)項目で記載
(8) 学校の財務	学園の財務状況
(9) 学校評価	自己点検評価、及び学校関係者評価の結果
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )

URL: [https://www.oct.ac.jp/views/themes/OCT2025/assets/pdf/other/R7\\_zyouhouteikyoku.pdf](https://www.oct.ac.jp/views/themes/OCT2025/assets/pdf/other/R7_zyouhouteikyoku.pdf)

公表時期: 令和7年9月2日

授業科目等の概要

(工業専門課程 大工技能学科)				授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携	
分類			講 義					演 習	実験・ 技 術 実 習	校 内	校 外	専 任	兼 任			
必修	選択必修	自由選択														
1	○		設計製図Ⅰ	建築設計製図の一連の流れである、問題の認識、その解決、そして伝達のための表現といった各課程を、身近な題材を元にした設計課題を通じて学ぶ。そのなかで建築業界のあらゆる職種で必要とされる、考える能力、実現する能力、伝達する能力を養成することを目的とする。と同時に作品を作っていく課程を通じて、モノづくりの魅力を体験し、社会で自己実現をなし得る主体性、積極性を養育。	1通	128	4			○	○			○	○	
	○		建築製図Ⅰ	業界のどの分野においても求められる、基本的設計能力と作図・読図能力を養成する。各チームにおいて作業項目を明確に設定し、その成果を自己認識することによって設計・製図能力を段階的に高めるべく、前期においては、製図規則の理解からスタートし、早速建て住宅から2階建て住宅まで、課せられた条件のもとで計画・設計を行い建築一般図面の作図までを行う。後期については、本通2階建て住宅及び3階建て建築物の建築設計製図について学ぶ。また、真実にこれらと向き合う作業を通じて、技術者に求められる集中力や想像力などを養成する。	1通	128	4			○	○			○	○	
3	○		建築技能実習Ⅰ	建築は多くの技能者が自分たちの長年培ってきた技能を最大限に発揮して形になっていくものである。実際の技能を身に付けるには多くの時間が必要であるが、この実習では木造建築の現場技能者(1級建築大工技能士)から具体的なメニューを厳選し大工技能を中心に短期間で即戦力になる技能者養成教育を行う。(実務業務に即したカリキュラム構成)特に手工芸を中心とした道具の扱い・メンテナンスには多くの時間を掛け、「職人気質」を実感できる実習を行い、現場で活躍できる人材教育に重点を置き、建築技能に関するさまざまな知識も積極的に盛り込み、様々な技能知識を実技演習から学ぶことを目的とする。	1通	128	4			○	○			○	○	
4	○		建築技能実習Ⅱ	建築は多くの技能者が自分たちの長年培ってきた技能を最大限に発揮して形になっていくものである。実際の技能を身に付けるには多くの時間が必要であるが、この実習では木物の現場技能者(1級建築大工技能士)から具体的なメニューを厳選し大工技能を中心に短期間で即戦力になる技能者養成教育を行う。(実務業務に即したカリキュラム構成)特に手工芸を中心とした道具の扱い・メンテナンスには多くの時間を掛け、「職人気質」を実感できる実習を行い、現場で活躍できる人材教育に重点を置き、建築技能に関するさまざまな知識も積極的に盛り込み、様々な技能知識を実技演習から学ぶことを目的とする。	1通	128	4			○	○			○	○	
5	○		建築技能実習Ⅲ	建築は多くの技能者が自分たちの長年培ってきた技能を最大限に発揮して形になっていくものである。実際の技能を身に付けるには多くの時間が必要であるが、この実習では木物の現場技能者(1級建築大工技能士)から具体的なメニューを厳選し大工技能を中心に短期間で即戦力になる技能者養成教育を行う。(実務業務に即したカリキュラム構成)特に手工芸を中心とした道具の扱い・メンテナンスには多くの時間を掛け、「職人気質」を実感できる実習を行い、現場で活躍できる人材教育に重点を置き、建築技能に関するさまざまな知識も積極的に盛り込み、様々な技能知識を実技演習から学ぶことを目的とする。	1通	128	4			○	○			○	○	
6	○		木構造設計製図	木構造といっても、その実態は非常に多岐に渡っているのが現状である。本講座では、その様々な木構造のうち、いわゆる伝統的軸組構法を、伝統的な軸組構法を視野に入れないが探っていく。具体的には、大工技 術学科の特色科目である技術実習と側面からサポートし、具体的には、木造と図面との相互関係に重点を置いた総合的造形物として創造していかなければなりません。この講義では、建築計画の概略(総論)から、身近な「住宅」を例に「計画」の基本的な考え方を身につけることを前提に、それぞれの学科の特色を活かしながら、建築計画の意義と必要な基礎知識を養います。	1通	64	2			○	○					○
7	○		建築計画Ⅰ	建築というものは人間のための空間です。その空間を創造する上には「建築とは何か」ということを十分に考慮しなければなりません。また、建築空間は、「機能性」「安全性」「社会性」「造形性」を含めた総合的造形物として創造していかなければなりません。この講義では、建築計画の概略(総論)から、身近な「住宅」を例に「計画」の基本的な考え方を身につけることを前提に、それぞれの学科の特色を活かしながら、建築計画の意義と必要な基礎知識を養います。	1前	32	2	○								
8	○		建築計画Ⅱ	この授業では、建築計画Ⅰで学んだ「総論」及び「住居施設の計画」についての要点を振り返りながら建築計画の「各論」から、学校教育施設、社会教育施設、医療・福祉施設、商業施設の機能・用途をその実用面・空間面を交えながら、各施設間の相互関係、具体的な施設手法について学びます。	1後	32	2	○								
9	○		建築史Ⅰ	本講座は、単なる建築史知識の暗記が目的ではなく、空間概念や設計手法、環境とのかかわり方、建築の意味を理解することが大切と考えている。歴史は単なる過去ではなく、今を生きる我々の設計に直接結びつくものであることを理解してもらいたい。本講ではそれを西洋建築・日本建築を通して行う。	1前	32	2	○								
10	○		建築史Ⅱ	本講座は、単なる建築史知識の暗記が目的ではなく、空間概念や設計手法、環境とのかかわり方、建築の意味を理解することが大切と考えている。歴史は単なる過去ではなく、今を生きる我々の設計に直接結びつくものであることを理解してもらいたい。本講ではそれを近代建築を通して行う。	1後	32	2	○								
11	○		建築法規Ⅰ	ソーシャルニーズの要求に対応し、より安全でより快適な人間のための社会環境を作り出していくためには、守らねばならない諸々のルールがある。それを法規制の側面から考えていく。中でも建築に深く関わる建築基準法の、体系、構成、各規定、を事例を交えて学習する。	1前	32	2	○								
12	○		建築法規Ⅱ	ソーシャルニーズの要求に対応し、より安全でより快適な人間のための社会環境を作り出していくためには、守らねばならない諸々のルールがある。それを法規制の側面から考えていく。中でも建築に深く関わる建築基準法の、体系、構成、各規定、を事例を交えて学習する。	1後	32	2	○								
13	○		建築一般構造Ⅰ	この科目は建築を学ぶ上での基礎的な科目であり、できるだけ多くの建築用語を知り、その内容の理解を目指す。最初は「建築物とは」から入り、地盤の基礎知識を学び、次に木構造の構成方法(在来工法)を学び、後の設計や施工に必要な知識を習得する。また、地盤・構造面から躯体や建築要素の諸問題について学ぶ。	1前	32	2	○								
14	○		建築一般構造Ⅱ	この科目では教育構造・鉄筋コンクリート構造・鉄骨コンクリート構造について学ぶ。今日の建築の多くはこれららの構造で造られており、その仕組みや特性についてよく理解し、その知識を血肉とすることは建築士として必須である。近年、良い建築を長く使いたいという社会的な要求が高まっており、新しい知見も取り入れながら講義を進める。	1後	32	2	○								
15	○		構造力学Ⅰ	建築の一分野に「構造設計」がある。それは、建築物を支えている骨組の設計や地盤等に対して安全かどうかの検討を行うものである。構造力学Ⅰではその構造設計に関連するまでの前期講座、つまり建築物に作用する力とは何か、また力をどのように扱うかという基礎理論から、静定構造の解析方法までを学ぶ。この授業では、実務的手法に重点を置いて、建築技術者の常識として知っておかなければならない構造力学Ⅱ	1前	32	2	○								
16	○		構造力学Ⅱ	構造力学Ⅱでは材料力学や断面形状による力学的性質の違いを理解し、構造力学Ⅰで学んだ内容を基に、静定構造の応力解析から各部分の許容応力度設計までを理解する。さらに後半では、簡単な不定構造問題を例にして、その解析方法の基本を学ぶ。この授業では、実務的手法に重点を置いて、建築技術者の常識として知っておかなければならない構造力学Ⅱの基礎知識を習得する。	1後	32	2	○								
17	○		情報処理論	建築技術者でも、ITリテラシーは必修条件となっている近年、建築業界においても例外ではなくコンピュータ化が進んでいる。情報処理の基礎として、誰もがパソコンを触れることが大切である。また最近では、アプリケーション等の利用も進んでいることより使用法等についても学ぶ。	1前	32	2	○	△							
18	○		建築施工法Ⅰ	建築施工とは、工事契約に基づき、各種建築図面や仕様書に従って工事を行い、建築物を完成させることである。この建築施工上の講義では、建築施工における基本的な用語や能力を身につけること、つまり、建築技術者として最低限知っておくべき施工知識を学ぶ。また、2年次の施工法を学ぶ上での土台となるべき知識や能力を身につけることを目的とする。	1後	32	2	○								
19	○		キャリアデザインⅠ	①業界における仕事力が高めるべく、業界の構成、仕組み、役割、仕事の内容、立ち位置などを知り、目指す方向性を見出すための知識を習得する。次に、実際の就職活動を通して履歴書作成、面接対策等のノウハウを重なる。②就職活動の準備として、基礎学力の確実な養成は不可欠である。国語、数学を主とした中学校、高等学校レベルの基礎学力向上を図る。	1通	64	2	○								
20	○		設計製図Ⅱ	1年次での設計製図Ⅰや計画系の講義、その他で学んだことをベースにし、実際に建てることのできるということとを前提条件にして設計演習を行う。集合住宅、学校、図書館、博物館を課題に取り上げ、与条件の分析、全体構想、所要室の整理、概略化、図面化を通じて、各建築図面の概略と一連の設計工程を把握する。	2通	128	4			○	○					
21	○		建築製図Ⅱ	建築業界のどの分野においても求められる、基本的設計能力と作図・読図能力を養成する。各チームにおいて作業項目を明確に設定し、その成果を自己認識することによって設計・製図能力を段階的に高めるべく、前期においては、課せられた条件のもとで鉄筋コンクリート構造の4階建て事務所ビルの計画・設計を行い、建築一般図面や各詳細図、構造図の作図までを学ぶ。後期については、鉄骨造4階建て建築物の計画・設計を行い、一般図面から構造図等の作図を行う。同時に、真実に設計作業や図面と向き合う作業を通じて、技術者に求められる集中力や想像力などを養成する。	2通	128	4			○	○					
22	○		建築技能実習Ⅳ	建築は多くの技能者が自分たちの長年培ってきた技能を最大限に発揮して形になるものである。実際のその技能を身に付けるには多くの時間が必要であるが、この実習では木物の現場技能者から具体的なメニューを厳選し大工技能を中心に短期間で即戦力になる技能者養成教育を行う。(実務業務に即したカリキュラム構成)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学んだ大工技能を基に、さらにバラエティーに富んだ実務作業を校内実習はもとより地域社会に根ざした現場実習や校外実習を通して建築技術者としてのグローバルな人材育成を学ぶ。	2通	128	4			○	○					
23	○		建築技能実習Ⅴ	建築は多くの技能者が自分たちの長年培ってきた技能を最大限に発揮して形になるものである。実際のその技能を身に付けるには多くの時間が必要であるが、この実習では木物の現場技能者から具体的なメニューを厳選し大工技能を中心に短期間で即戦力になる技能者養成教育を行う。(実務業務に即したカリキュラム構成)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学んだ大工技能を基に、さらにバラエティーに富んだ実務作業を校内実習はもとより地域社会に根ざした現場実習や校外実習を通して建築技術者としてのグローバルな人材育成を学ぶ。	2通	128	4			○	○					
24	○		建築技能実習Ⅵ	建築は多くの技能者が自分たちの長年培ってきた技能を最大限に発揮して形になるものである。実際のその技能を身に付けるには多くの時間が必要であるが、この実習では木物の現場技能者から具体的なメニューを厳選し大工技能を中心に短期間で即戦力になる技能者養成教育を行う。(実務業務に即したカリキュラム構成)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学んだ大工技能を基に、さらにバラエティーに富んだ実務作業を校内実習はもとより地域社会に根ざした現場実習や校外実習を通して建築技術者としてのグローバルな人材育成を学ぶ。	2通	128	4			○	○					
25	○		卒業制作	2年間の集大成として、卒業制作では製作課題を自ら設定し、コンセプトを立て、課題解決・提案・プレゼンテーションを行う。	2後	(64)	2									
26	○		CAD設計製図Ⅰ	近年、建築業界のあらゆる分野でコンピュータ化が進んでおり、設計関係においてCADは一般的な道具となっているのが現状である。従って、CAD設計製図は建築技術者として身につけておくべき必須技術の1つでもある。本科目では基本練習により2次元CADの基本操作を習得した後に、さまざまな条件が課せられた建築物の計画・設計、さらにその建築図面の作成まで一連の作業を課題を通して学んでいく。	2前	64	2			○	○					
27	○		CAD設計製図Ⅱ	近年、建築業界のあらゆる分野でコンピュータ化が進んでおり、設計関係においてCADは一般的な道具となっているのが現状である。従って、CAD設計製図は建築技術者として身につけておくべき必須技術の1つでもある。本科目ではCAD設計製図Ⅰの内容を受けてCADを利用して事務所ビルの計画・設計から建築図面の作成まで一連の作業を課題を通して学んでいく。さらに構想や構法の違いによるディテールや図面表現の違いやプレゼンテーションへの展開も学ぶ。	2後	64	2			○	○					
28	○		建築環境工学	この授業では、望ましい室内環境を形成するための知識を得て、さらに建築環境と省エネルギーについての理解を目標としている。環境についての議論は、今や地球の存続という命題になりつつあり、全世界で排出される二酸化炭素の削減が喫緊の課題であるといわれ、その削減に対して我々が果たすべき役割は日々大きくなっていると言える。「建築環境工学」という科目は、従来の建築のあり方を見直し、今後の方法を模索してゆく基礎を築くものであると考える。	2前	32	2	○								
29	○		建築設備	人間の生活に不可欠な空気、水、電気について学ぶ。主として木造住宅やマンション等の集合住宅や事務所、店舗などに対して、快適な居住環境を創造するための諸設備(空気調和設備、給排水・衛生設備、電気・ガス設備等)について学習する。また、建築設備と設備図面との関係についても学ぶ。	2後	32	2	○								
30	○		建築材料学Ⅰ	この科目は、まず前半に日本の代表的・伝統的建築材料である木材について学び、後半に現代建築における重要な建築材料であるコンクリートについて学ぶ。この二つを学ぶことによって建築材料による建築の歴史	2前	32	2	○								
31	○		建築材料学Ⅱ	建築材料Ⅰの続きとしてここからは出来るだけ多くの材料を取り上げていく。まずは金属製品、特に構造用鋼材の形質や種類について学び次にアルミサッシ等の特徴を知る。次に仕上げ材を分類別にガラス、セラミックス、木材と並び、機能材料などを学ぶ。リフォームについて学ぶ材料の扱い方について学ぶ。	2後	32	2	○								
32	○		建築施工法Ⅱ	1年次で学んだ建築施工法Ⅰを基にして、建築材料科学、一般構造、法規、構造力学等の知識を統合し、深く工技術者を学ぶ教科である。最近では現場での改善・改良がすすみ新工法が数多く考案されているが、この教科では、将来、経験や知識を積み重ねていくために必要な施工知識を得ようとする姿勢を得ることを、建築物の実現は予算の確立がなければ不可能であり、実社会でもコストに対する重要性が認識され、その関心も高まっている。建築における構法の位置づけを考察しつつ、実際の建築工事にかかわる設計図書から建築費率を学ぶ。建築費率を学ぶ。	2前	32	2	○								
33	○		建築精算	建築物の実現は予算の確立がなければ不可能であり、実社会でもコストに対する重要性が認識され、その関心も高まっている。建築における構法の位置づけを考察しつつ、実際の建築工事にかかわる設計図書から建築費率を学ぶ。建築費率を学ぶ。	2後	32	2	○								
34	○		キャリアデザインⅡ	1年次に続き就職活動対策、社会人としての基礎学力習得を目的としたトレーニングを重ねることに加え、社会人マナーや常識など働く上での基本となる考え方、知識、所作を習得。具体的には、就職対策では面接(個人、集団)、グループディスカッション、論文文、SPIへの対応方法を学び、基礎学力では1年次の国語、数学に加え、英語、理科まで分野を広げる。	2通	64	2	○								

合計	34	科目	2176	単位時間 (88単位)
----	----	----	------	-------------

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 1年次・2年次の必修科目合計44単位の履修合格を含め、選択必修科目・自由選択科目から履修合計した単位との総合計が72単位以上であること。		1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 原則、全科目を履修すること。		1 学期の授業期間	16 週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。